## 鹿児島県知事、川内原発再稼働同意 民意無視の暴挙を許さない!

本日、鹿児島県議会は九州電力川内原子力発電所1・2号機の再稼働について賛成陳情を採択し、これを受けて、伊藤祐一郎・鹿児島県知事は再稼働同意を表明しました。

「再稼働反対」の民意を無視し、何よりも原発事故によって命とふるさとを奪われた方達の心を踏みにじる 暴挙です。東京電力福島第一原発事故はいまだに収束しておらず、「原子力緊急事態宣言」の最中での原 発再稼働は許されません。

11月6日の鹿児島県議会原子力特別委員会では、伊藤知事は知事としての責任を問われると、「知事には責任はない。福島でも知事の責任は問われなかった」と答弁しました。福島事故の教訓を逆さまにした開き直りです。古川康・佐賀県知事は「(説明会のやり方など)一人の政治家として、伊藤知事を敬服している」と発言(10月22日定例記者会見)しましたが、県民の命を預かる立場の知事としての役割を放棄するものであり、鹿児島県知事の「同意」表明に、私達は心の底から抗議の意を表明します。

- ●原子力規制委員会の「審査書」に対して18000件のパブリックコメントが専門家や市民から出されましたが、 火山、地震、重大事故対策等について、反対・慎重な立場からの意見はほとんど無視されました。
- ●住民説明会は、「公聴会」や「公開討論会」などを求める市民からの声を無視して、「審査書」に限った一方的な説明で、日時場所設定も一方的、質問時間も限られました。 ほとんどの質問が再稼働への不安、反対を表明したものでしたが、国や県はまともに答えませんでした。 アリバイづくりと言われても仕方ないものでした。
- ●巨大噴火が心配される火山審査について火山学会が「巨大噴火は予測できない。火山評価ガイドを見直 すべき」との提言を出しましたが、田中・規制委員会委員長は「いまさら言われても困る」と開き直り発言です。
- ●住民説明会でも不安の声が相次いだ避難計画は、国の責任もあいまいなまま自治体に押し付けられていますが、最悪の想定がなされず机上の空論であり、避難計画では住民の命を守れないことがますます明らかになってきました。
- ●とりわけ病院や福祉施設入所者など要援護者の避難は、「計画は空想的」(伊藤鹿児島県知事)として、未計画なまま切り捨て、成り行き避難で弱者を見殺しにする方向です。
- ●津波・高潮・土砂災害などによる危険区域にある避難施設は、原子力災害時の避難所として利用してはならないと法律で決められているにもかかわらず、違反している事実が、鹿児島県各地で明らかになっています。 行政は違法状態をまず住民に説明して、たださなければならず、再稼働の議論など論外です。

\* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \*

原発事故が他の事故や災害と大きく違うのは「目に見えない放射能」が私たちの生活を脅かすものだからです。 原発は「経済の問題」でも「エネルギー」の問題でもありません。「命」の問題なのです。

「核のゴミをもうこれ以上増やさないで欲しい。何ものにも変えがたい大自然とそこで暮らす住民たちを守って欲しい」、私達のせめてもの願いです。

鹿児島県議会では再稼働反対の県議が「"国富"とは美しい鹿児島で人々が幸せな生活を営むことであること」と切々と訴えました。県庁者内外には、連日朝から夜遅くまで、同じ思いの市民が鹿児島や全国各地からたくさん駆けつけ、再稼働反対の意志を表明し続けました。

命のことだから、私達は引き下がりません。

山積している問題点を引き続き追及していきましょう。手続き上も様々なハードルがあり、再稼働推進派の 思うようには再稼働は進みません。私達にはまだできることがあります。

川内原発・玄海原発、そして全国の原発の再稼働絶対反対!

ともに声をあげ、行動しましょう。

2014年11月7日

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会